**参考資料１－１**

**資料１－１**
**第１回周産期医療体制整備計画検討部会**（H29.2.10）

## 国の動向について

国においては、都道府県医療計画の見直し及び周産期医療のあり方について、それぞれ検討会において議論を行い、平成 28 年 12 月に意見がまとめられ、平成 28 年度内に新たな医療計画作成指針が示される見込みであること。

これらの意見では、周産期医療体制整備計画を医療計画と一本化する方向が示されたこと。

**〔各検討会の意見の内容〕**

**１　周産期医療体制のあり方に関する検討会 意見の取りまとめ**（平成 28 年 12 月 13 日）資料１－２

**（１）医師不足等に対応した地域における周産期医療の確保**

→地域における継続的な診療体制の確保（診療所等の維持・新設への財政的支援、ＮＩＣＵ長期入院児の在宅医療への移行促進）

→ハイリスク分娩を扱う医療機関の重点化・集約化

→医師以外の他職種の活用（院内助産の活用、助産師出向システムの推進、人材育成・活用推進）

→住民への更なる普及啓発（適切な受診行動の普及啓発等）

**（２）周産期に係る医療圏の設定と広域搬送の充実等**

→周産期医療に係る医療圏の設定

→広域搬送の充実と近隣都道府県との連携

→ＮＩＣＵ及びＭＦＩＣＵの整備に係る検討の継続

**（３）合併症を有する妊婦への対応**

→総合周産期母子医療センターにおける精神疾患を合併した妊産婦への対応ができる体制の整備

**（４）災害時の周産期医療体制**

→円滑な情報伝達と災害時小児周産期リエゾンの養成

→災害に備えた体制の確保（周産期母子医療センターにおける事業継続計画（ＢＣＰ）策定等）

**（５）周産期医療体制整備計画と医療計画の一本化**

**（６）助産所における安全確保の方策等について**

**２　医療計画の見直し等に関する検討会 意見の取りまとめ**（周産期医療部分抜粋）（平成 28 年 12 月 26 日）資料１－３

**（１）ハイリスク妊産婦及び新生児に係る整備を都道府県全体の医療体制整備と連動したものとしてさらに進めるため、「周産期医療体制整備計画」を「医療計画」に一本化して推進**

**（２）周産期医療の体制を整備するに当たり、周産期医療の実態に則した圏域を設定**

→「周産期医療体制整備計画」を「医療計画」一本化した上で、二次医療圏を原則としつつも、基幹病院へのアクセス範囲や医資源等実情を考慮した圏域を設定する等の体制整備進を進める。

**（３）災害時において、特に医療のサポートが必要となる妊産婦・新生児等について、適切に対応できる体制を構築**

→災害時に妊産婦・新生児 等へ対応できる体制の構築を進めるため、「小児小周産期災害リエゾン」の養成を進める。

**（４）精神疾患を合併した妊婦の診療に対応できるよう、周産期医療と精神科医療が連携した体制を整備**

→総合周産期母子医療センターにおいて、精神疾患を合併した妊婦への対応ができる体制整備を進める。

# 次期医療計画（周産期医療）の策定について

## １　次期計画の策定・位置付けについて

県においては、国の動向を踏まえ平成 29 年度内に新たな医療計画を策定するが、周産期医療の部分については、引き続き県周産期医療協議会及び同周産期医療体制整備計画検討部会において検討を行うもの。なお、医療計画の策定については、県医療審議会に諮ることから、医療審議会（計画部会）と連動した動きとなるもの。

## ２　平成 28 年度周産期医療実態調査について

次期計画策定の基礎資料とするため、県内に住所地を有する妊婦の受療動向や、医療機関の状況、分娩数等の実態を把握するため、今年度調査を実施したもの。なお、本資料の調査結果は、部会開催時点の**速報値**であり、今後精査により変動する可能性があるもの（**取扱注意**）。

〔調査実施時期〕平成 28 年 9～10 月
〔調査対象期間〕平成 27 年（平成 27 年 1～12 月）及び平成 28 年上半期（平成 28 年 1～6 月）
〔調査対象及び調査内容〕
①医療機関　医療機関の状況（病床数、職員数等）、
分娩取扱実績（産婦の住所地、分娩数等）、院内助産所分娩取扱実績
母体の搬送状況（搬送受入・依頼状況）、
新生児の搬送状況（搬送受入・依頼状況）、
健診実績（健診妊婦実人数、紹介先分娩取扱医療機関）
②市町村　分娩取扱医療機関ごとの分娩妊婦数、
周産期医療情報ネットワーク「いーはとーぶ」登録者数

**※ 盛岡市分については、現在集計中であること。**

## ３　現医療計画における取組状況等

### （１）取組の状況

現医療計画の課題に対するこれまでの取組の状況は下記のとおり。

**①　周産期医療体制の整備**

**○ 周産期救急搬送コーディネーターの配置**

H23 年度から、総合周産期母子医療センター（岩手医科大学附属病院）に妊産婦及び新生児の緊急時における受入先を確保する周産期救急搬送コーディネーターを配置し、全県的な救急搬送体制を整備

**○ 周産期母子医療センターの運営費への補助**

総合及び地域周産期母子医療センターの運営に対する補助を実施

**○ 総合周産期母子医療センターの機器整備への補助**

総合周産期母子医療センターに専門的な周産期医療体制の整備を図るため、母体・胎児集中治療管理室（MFICU）や新生児特定集中治療室（NICU）に必要な機器の整備に要する経費に対する補助を実施

**○　ＩＣＴを活用したネットワーク整備**

**ア　周産期電子カルテ（ハローベイビー）の整備**（H24～25 年度）

「いーはとーぶ」と基幹電子カルテを連動させる「周産期電子カルテ」の導入整備
（H25 年度 北上済生会病院除く周産期母子医療センター等 10 施設整備済）

**イ　超音波画像診断装置（エコー機）の整備**

胎児先天性心疾患の診断に有効な機能を有する超音波画像診断装置（エコー機）を整備

・周産期母子医療センターへの整備（H25 年度～H26 年度）
周産期母子医療センター等 10 施設へ整備
・分娩取扱等医療機関への整備（H24 年度～H27 年度）
遠野市助産院含む県内 26 施設へ整備

**ウ　超音波画像（エコー画像）解析装置の整備**（H26 年度）
総合周産期母子医療センター１施設へ整備

**エ　超音波画像伝送システムの整備**（H27 年度）
遠野市助産院含む周産期母子医療センター等 12 施設へ整備

**オ　地域周産期医療関係者スキルアップ事業**（H24～27 年度）
「いーはとーぶ」を基軸とした周産期医療情報連携の効率的・効果的な運用のため、県内の助産師等の医療従事者のスキルアップ研修を実施

**〔参考データ〕**

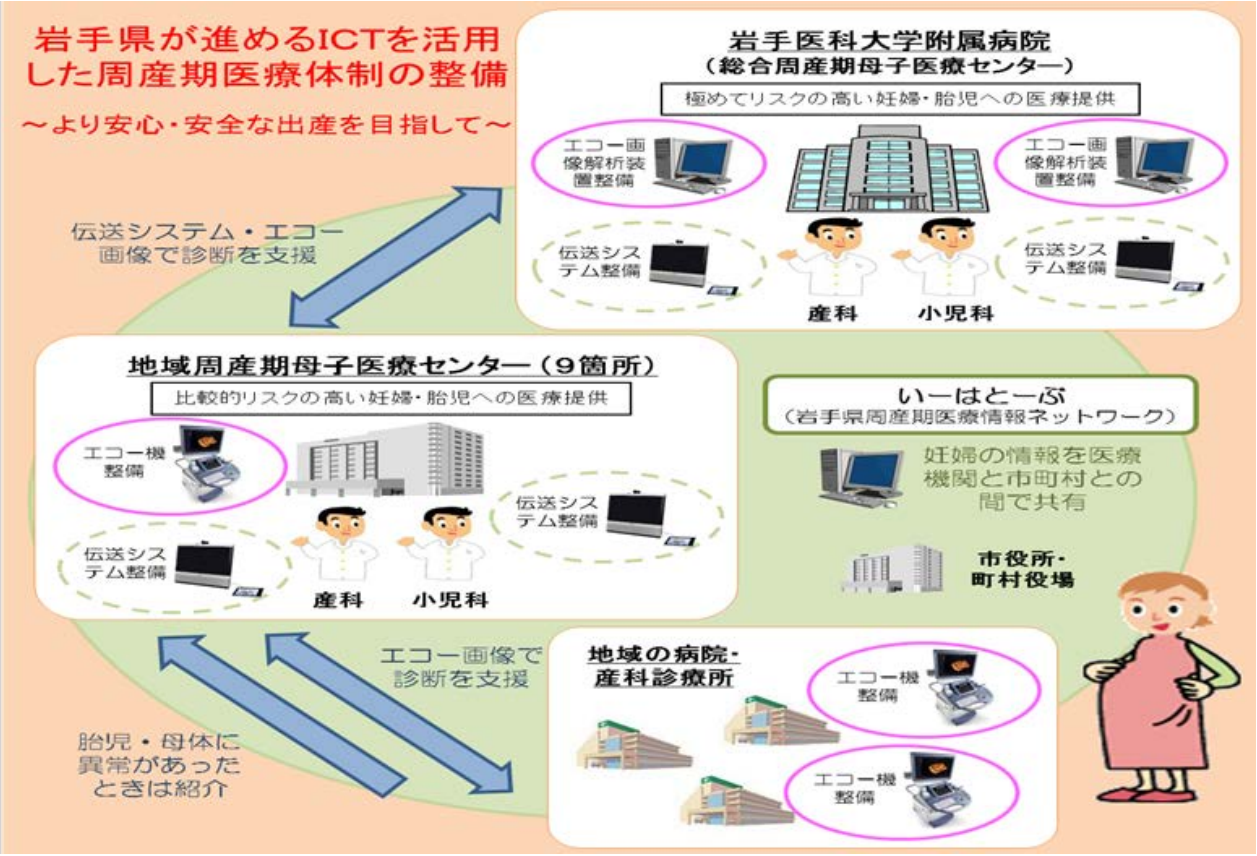
◆病床数（H28.9.1 現在）
一般産科病床 705 床、一般新生児病床 92 床、MFICU 9 床、NICU 47 床、GCU 16 床

◆県内の母体・新生児の搬送状況（H27 年実績）
《母体・他機関への搬送依頼》
依頼 308 件（うち搬送コーディネート利用 124 件）、実施 308 件
（搬送先：総合周産期センター73 件、地域周産期センター229 件、県外病院 6 件）
《新生児・他機関への搬送依頼》
依頼 121 件（うち搬送コーディネート利用 11 件）、実施 119 件、搬送せず 2 件
（搬送先：総合周産期センター28 件、地域周産期センター82 件、県外病院 6 件、その他 3 件）

◆搬送コーディネート件数の推移

| 年度 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 妊産婦 | 93 | 156 | 229 | 241 | 194 | 913 |
| 新生児 | 53 | 80 | 57 | 89 | 33 | 312 |

◆従事者数（非常勤含む、H28.9.1 現在）
産婦人科医 103 人、小児科医 41 人、小児外科医 4 人、麻酔科医 62 人、助産師 349 人



# 周産期医療体制

**ハイリスク**

**総合周産期母子医療センター**（県内１か所）
- ○リスクの高い妊娠に対する医療及び高度な新生児医療
- ○MFICUを含む産科病棟及びNICUを含む新生児病棟を具備
- ○県下各地域からの搬送の受け入れ
- ○周産期医療体制の中核として周産期医療関連施設と連携

＜周産期医療圏＞

母体・新生児搬送　軽快　連携

**中・低リスク**

**地域周産期母子医療センター**（４周産期医療圏に相当数）
**地域周産期母子医療センター協力病院**
- ○周産期に係る比較的高度な医療
- ○産科（緊急帝王切開）及び小児科（新生児医療）を提供
- ○救急搬送や戻り搬送の受入等周産期医療関連施設との連携
- ○正常分娩に対応

岩手県周産期医療情報ネットワークを活用した連携による妊産婦のサポート
遠隔妊婦健診
診療情報の共有
モバイルCTG等

母体・新生児搬送　連携

**低リスク**

**病院・診療所**
- ○主に正常分娩への対応
- ○妊婦健診を含めた分娩前後の診療
- ○妊産婦のメンタルヘルスへの対応
- ○リスクの低い帝王切開術の対応

**助産師外来等**
○妊婦健診・保健指導

**院内助産**
○正常分娩

**市町村**
○妊婦健診・保健指導

| 施設名 | 医療機関名 | | | |
|---|---|---|---|---|
| ハイリスク<br>総合周産期母子医療センター | 岩手医科大学附属病院 | | | |
| 中・低リスク<br>地域周産期母子医療センター | 盛岡・宮古 | 岩手中部・胆江・両盤 | 気仙・釜石 | 久慈・二戸 |
| 周産期母子医療センター協力病院 | 県立中央病院<br>盛岡赤十字病院<br>県立宮古病院 | 県立中部病院<br>北上済生会病院<br>県立磐井病院 | 県立大船渡病院<br>県立釜石病院 | 県北地域周産期母子医療センター<br>県立久慈病院<br>県立二戸病院 |
| 低リスク<br>病院 | | 一関病院 | | |
| 診療所 | 診療所（10） | 診療所（10） | 診療所（0） | 診療所（0） |
| 助産所 | 院内助産・助産師外来（3） | 院内助産・助産師外来（8） | 院内助産・助産師外来（2） | 院内助産・助産師外来（2） |

② 妊産婦の負担軽減

○ 岩手県周産期医療情報ネットワーク「いーはとーぶ」の整備（平成 21 年度～）

市町村の「いーはとーぶ」への加入を拡大することにより、妊産婦及び新生児の搬送時における適切な受入体制を確保するとともに、市町村と医療機関の連携を強化

○ 市町村におけるアクセス支援

市町村において、妊産婦の遠方の医療機関への通院に対する支援（補助）を実施

〔参考データ〕

◆いーはとーぶ加入市町村数　32 市町村（未加入：西和賀町）、43 医療機関

◆母子健康手帳交付妊婦（6,385 人）のうち「いーはとーぶ」登録者数 6,012 人（登録率 94.2%）（盛岡市分を除く、H27 年実績）

◆妊産婦へのアクセス支援実施市町村数　11 市町村（**参考資料２－４**）

（２）現医療計画における数値目標の達成状況

| 目標項目 | 現状値（H23） | 目標値（H29） | 実績値（H26） |
|---|---|---|---|
| 周産期死亡率（出産千対） | 4.9 | 4.1 | 3.5 |

（３）周産期医療を取り巻く現状

ア　人口動態

出生数は約 1 割減少しているが、低体重児の割合は増加している。また、母の年齢は 25～29 歳の割合が減少している一方で、35 歳以上が 3.9 ポイント増加している。

| 項目 | H21 年（計画策定時） | H26 年（直近の値） |
|---|---|---|
| 出生数 | 9,904 人 | 8,803 人 |
| 低体重児（2,500g 未満）数（割合） | 895 人（9.0%） | 858 人（9.7%） |
| 母の年齢 | | |
| 15～19 歳 | 136 人（ 1.3%） | 112 人（ 1.3%） |
| 20～24 歳 | 1,429 人（14.4%） | 1,302 人（14.8%） |
| 25～29 歳 | 3,183 人（32.1%） | 2,664 人（30.3%） |
| 30～34 歳 | 3,215 人（32.5%） | 2,923 人（33.2%） |
| 35～39 歳 | 1,677 人（16.9%） | 1,711 人（19.4%） |
| 40～44 歳 | 257 人（ 2.6%） | 349 人（ 4.0%） |
| 45～49 歳 | 7 人（ 0.1%） | 12 人（ 0.1%） |
| 〔35 歳以上計〕 | 〔1,941 人(19.6%)〕 | 〔2,072 人(23.5%)〕 |

（出典：保健福祉年報（岩手県保健福祉部））

**イ　医師数**

〔小児科医〕（単位：人）

県全体としては増加しているが、そのほとんどが盛岡圏域での増加となっている。

| 区　分 | H22 | | H24 | | H26 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 従事者数 | 15歳未満人口10万対 | 従事者数 | 15歳未満人口10万対 | 従事者数 | 15歳未満人口10万対 | 対盛岡比(%) |
| 全国 | 15,870 | 94.4 | 16,340 | 98.7 | 16,758 | 103.2 | 79.3 |
| 岩手県 | 128 | 75.8 | 143 | 88.3 | 141 | 90.4 | 69.5 |
| 盛岡 | 68 | 108.1 | 79 | 127.2 | 79 | 130.1 | 100.0 |
| 岩手中部 | 16 | 52.8 | 17 | 57.4 | 17 | 59.6 | 45.8 |
| 胆江 | 9 | 49.7 | 10 | 56.9 | 9 | 53.6 | 41.2 |
| 両磐 | 10 | 59.4 | 9 | 56.0 | 8 | 52.7 | 40.5 |
| 気仙 | 5 | 61.4 | 8 | 110.9 | 8 | 119.1 | 91.6 |
| 釜石 | 5 | 80.8 | 4 | 74.7 | 5 | 100.0 | 76.9 |
| 宮古 | 6 | 53.9 | 6 | 59.1 | 6 | 64.5 | 49.6 |
| 久慈 | 4 | 47.7 | 5 | 64.5 | 4 | 55.3 | 42.5 |
| 二戸 | 5 | 72.9 | 5 | 76.7 | 5 | 81.6 | 62.7 |

※「対盛岡比」は、H26の盛岡医療圏（15歳未満人口10万対医師数）を100とした場合の比率（以下同じ）

（出典：医師、歯科医師、薬剤師調査（厚生労働省））

〔産婦人科医〕（単位：人）

県全体としては増加しているが、そのほとんどが盛岡圏域での増加となっている。

| 区　分 | H22 | | H24 | | H26 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 従事者数 | 15～49歳女子人口10万対 | 従事者数 | 15～49歳女子人口10万対 | 従事者数 | 15～49歳女子人口10万対 | 対盛岡比(%) |
| 全国 | 10,652 | 39.4 | 10,868 | 40.7 | 11,085 | 42.2 | 75.2 |
| 岩手県 | 94 | 37.8 | 98 | 41.0 | 100 | 43.1 | 76.9 |
| 盛岡 | 50 | 48.7 | 52 | 51.7 | 55 | 56.1 | 100.0 |
| 岩手中部 | 8 | 18.9 | 11 | 26.5 | 10 | 24.8 | 44.2 |
| 胆江 | 5 | 20.2 | 6 | 25.3 | 6 | 26.1 | 46.5 |
| 両磐 | 10 | 43.9 | 10 | 46.0 | 9 | 43.4 | 77.5 |
| 気仙 | 6 | 52.0 | 5 | 48.7 | 5 | 50.0 | 89.2 |
| 釜石 | 1 | 11.6 | 1 | 13.3 | 2 | 27.6 | 49.2 |
| 宮古 | 6 | 40.5 | 6 | 43.4 | 5 | 37.8 | 67.4 |
| 久慈 | 2 | 17.8 | 2 | 18.7 | 2 | 19.7 | 35.1 |
| 二戸 | 6 | 61.4 | 5 | 53.6 | 6 | 68.0 | 121.2 |

※「対盛岡比」は、H26の盛岡医療圏（15～49歳女子人口10万対医師数）を100とした場合の比率

（出典：医師、歯科医師、薬剤師調査（厚生労働省））

### ウ　助産師数

県全体として増加しているが、そのほとんどが盛岡圏域での増加となっている。

（単位：人）

| 区　分 | H22 | H24 | H26 |
|---|---|---|---|
| 全国 | 29,670 | 31,835 | 33,956 |
| 岩手県 | 349 | 349 | 370 |
| 盛岡 | 149 | 149 | 184 |
| 岩手中部 | 52 | 56 | 46 |
| 胆江 | 12 | 13 | 12 |
| 両磐 | 37 | 30 | 33 |
| 気仙 | 22 | 19 | 23 |
| 釜石 | 14 | 19 | 15 |
| 宮古 | 23 | 23 | 21 |
| 久慈 | 20 | 19 | 14 |
| 二戸 | 20 | 21 | 22 |

（出典：衛生行政報告例（厚生労働省））

### エ　分娩取扱医療機関の状況

病院数の増減はないが、診療所数は８施設減少し、気仙・釜石、久慈・二戸圏域では分娩取扱診療所がない状況である。

| 周産期医療圏域 | 保健福祉圏域 | H22.4.1 現在 | | H28.9.1 現在 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 病院 | 診療所 | 病院 | 診療所 |
| 盛岡 | 盛岡 | 3 | 12 | 3 | 8 |
| 宮古 | 宮古 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| 岩手中部 | 岩手中部 | 2 | 3 | 2 | 3 |
| 胆江 | 胆江 | 0 | 5 | 0 | 4 |
| 両磐 | 両磐 | 2 | 3 | 2 | 3 |
| 気仙 | 気仙 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 釜石 | 釜石 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 久慈 | 久慈 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 二戸 | 二戸 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 計 | | 12 | 28 | 12 | 20 |

（岩手県医療政策室調査）

### オ　分娩取扱件数

分娩取扱件数は約１割減少している。

| 周産期医療圏域 | 保健福祉圏域 | H21 年 | | H27 年 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 分娩取扱件数 | （参考）圏域別出生数 | 分娩取扱件数 | （参考）圏域別出生数（H26 年） |
| 盛岡 | 盛岡 | 4,572 | 3,903 | 4,172 | 3,587 |
| 宮古 | 宮古 | 670 | 604 | 576 | 484 |
| 岩手中部 | 岩手中部 | 1,633 | 1,791 | 1,706 | 1,640 |
| 胆江 | 胆江 | 828 | 1,052 | 688 | 898 |
| 両磐 | 両磐 | 1,338 | 931 | 1,123 | 797 |
| 気仙 | 気仙 | 629 | 409 | 432 | 355 |
| 釜石 | 釜石 | 212 | 375 | 203 | 287 |
| 久慈 | 久慈 | 406 | 464 | 361 | 434 |
| 二戸 | 二戸 | 569 | 375 | 484 | 321 |
| 計 | | 10,857 | 9,904 | 9,745 | 8,803 |

（岩手県医療政策室調査）

## カ　各圏域における分娩の状況　実態調査結果（速報値）・取扱注意

各二次保健医療圏域における分娩状況は下記のとおりである。(H27 年実績、岩手県医療政策室調査)

〔盛岡圏域〕（集計中）

〔宮古圏域〕

県立宮古病院で分娩した産婦のうち、宮古圏域居住者は 76.0%、県外居住者は 13.0%となっている。また、宮古圏域の居住者の 80.7%が圏域内で分娩している。

・県立宮古病院の産婦の住所地

| 圏域・地域 | 宮古 | 釜石 | 久慈 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 292 | 16 | 1 | 25 | 50 | 384 |
| 割合 | 76.0% | 4.2% | 0.3% | 6.5% | 13.0% | 100.0% |

・宮古圏域の産婦の分娩場所

| 圏域・地域 | 宮古 | 釜石 | 久慈 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 436 | 5 | 13 | 51 | 35 | 540 |
| 割合（%） | 80.7% | 0.9% | 2.4% | 9.4% | 6.5% | 100.0% |

〔岩手中部圏域〕

県立中部病院及び北上済生会病院で分娩した産婦のうち約 2 割が胆江圏域居住者である。また、岩手中部圏域の居住者の 75.2%が圏域内で分娩している。

・県立中部病院及び北上済生会病院の産婦の住所地

| 圏域・地域 | 岩手中部 | 盛岡 | 胆江 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 586 | 26 | 198 | 22 | 155 | 987 |
| （中部病院） | 374 | 14 | 144 | 15 | 65 | 612 |
| （北上済生会） | 212 | 12 | 54 | 7 | 90 | 375 |
| 割合 | 59.4% | 2.6% | 20.1% | 2.2% | 15.7% | 100.0% |
| （中部病院） | 61.1% | 2.3% | 23.5% | 2.5% | 10.6% | 100.0% |
| （北上済生会） | 56.5% | 3.2% | 14.4% | 1.9% | 24.0% | 100.0% |

・岩手中部圏域の産婦の分娩場所

| 圏域・地域 | 岩手中部 | 盛岡 | 胆江 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 1,171 | 203 | 31 | 44 | 109 | 1,558 |
| 割合（%） | 75.2% | 13.0% | 2.0% | 2.8% | 7.0% | 100.0% |

〔胆江圏域〕

胆江圏域の居住者のうち 55.8%が胆江圏域、9.9%が両磐圏域、22.2%が岩手中部圏域で分娩している。

・胆江圏域の産婦の分娩場所

| 圏域・地域 | 胆江 | 両磐 | 岩手中部 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 556 | 99 | 221 | 60 | 60 | 996 |
| 割合 | 55.8% | 9.9% | 22.2% | 6.0% | 6.0% | 100.0% |

〔両磐圏域〕

県立磐井病院で分娩した産婦のうち約4割が県外居住者で、うち宮城県が17.8%（前回調査時（H22年度）14.1%）となっている。また、両磐圏域の居住者の84.4%が圏域内で分娩している。

・県立磐井病院の産婦の住所地

| 圏域・地域 | 両磐 | 胆江 | 県内他圏域 | 宮城県 | 県外その他※ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 274 | 62 | 26 | 109 | 140 | 611 |
| （前回・H22） | 302 | 69 | 30 | 87 | 131 | 619 |
| 割合 | 44.8% | 10.1% | 4.3% | 17.8% | 22.9% | 100.0% |
| （前回・H22） | 48.8% | 11.1% | 4.8% | 14.1% | 21.2% | 100.0% |

※県外その他の内訳：北海道・東北他県21、関東95、中部11、近畿8、中国4、九州1

・両磐圏域の産婦の分娩場所

| 圏域・地域 | 両磐 | 胆江 | 県内他圏域 | 宮城県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 602 | 11 | 37 | 30 | 33 | 713 |
| 割合 | 84.4% | 1.5% | 5.2% | 4.2% | 4.6% | 100.0% |

〔気仙圏域〕

県立大船渡病院で分娩した産婦のうち、県外居住者は 1.2%、うち宮城県がゼロ（前回調査時3.8%）となっている。また、気仙圏域の居住者の83.2%が圏域内で分娩している。

・県立大船渡病院の産婦の住所地

| 圏域・地域 | 気仙 | 釜石 | 県内他圏域 | 宮城県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 329 | 65 | 33 | 0 | 5 | 432 |
| （前回・H22） | 355 | 96 | 53 | 23 | 81 | 608 |
| 割合 | 76.2% | 15.0% | 7.6% | 0.0% | 1.2% | 100.0% |
| （前回・H22） | 58.4% | 15.8% | 8.7% | 3.8% | 13.3% | 100.0% |

・気仙圏域の産婦の分娩場所

| 圏域・地域 | 気仙 | 釜石 | 県内他圏域 | 宮城県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 331 | 0 | 30 | 16 | 21 | 398 |
| 割合 | 83.2% | 0.0% | 7.5% | 4.0% | 5.3% | 100.0% |

〔釜石圏域〕

県立釜石病院で分娩した産婦のうち、圏域内が77.3%、県外居住者が12.8%となっている。また、釜石圏域の居住者の55.7%が圏域内、23.3%が気仙圏域で分娩している。

・県立釜石病院の産婦の住所地

| 圏域・地域 | 釜石 | 気仙 | 岩手中部 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 157 | 0 | 9 | 11 | 26 | 203 |
| 割合 | 77.3% | 0.0% | 4.4% | 5.4% | 12.8% | 100.0% |

・釜石圏域の産婦の分娩場所

| 圏域・地域 | 釜石 | 気仙 | 岩手中部 | 県内他圏域 | 県外 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 | 160 | 67 | 4 | 38 | 18 | 287 |
| 割合 | 55.7% | 23.3% | 1.4% | 13.2% | 6.3% | 100.0% |

〔久慈圏域〕※H28 年は上半期（1～6 月）実績

県立久慈病院で分娩した産婦のうち、県外居住者は、H27 年が 16.4%（うち青森県が 1.5%）、H28 年（上半期）は 11.1%（うち青森県はゼロ）となっている。

また、久慈圏域の居住者のうち青森県で分娩したのは、H27 年は 20.6%、H28 年（上半期）は 15.1%となっている。

・県立久慈病院の産婦の住所地　※H28 は上半期（1～6 月）

| 圏域・地域 | 久慈 | 二戸 | 県内他圏域 | 青森県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 H28※ | 49 | 0 | 7 | 0 | 7 | 63 |
| H27 | 50 | 1 | 5 | 1 | 10 | 67 |
| （前回・H22） | 100 | 0 | 18 | 4 | 14 | 136 |
| 割合 H28※ | 77.8% | 0.0% | 11.1% | 0.0% | 11.1% | 100.0% |
| H27 | 74.6% | 1.5% | 7.5% | 1.5% | 14.9% | 100.0% |
| （前回・H22） | 73.5% | 0.0% | 13.2% | 2.9% | 10.3% | 100.0% |

・久慈圏域の産婦の分娩場所　※H28 は上半期（1～6 月）

| 圏域・地域 | 久慈 | 二戸 | 県内他圏域 | 青森県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 H28※ | 93 | 28 | 18 | 25 | 2 | 166 |
| H27 | 211 | 44 | 25 | 77 | 16 | 373 |
| 割合 H28※ | 56.0% | 16.9% | 10.8% | 15.1% | 1.2% | 100.0% |
| H27 | 56.6% | 11.8% | 6.7% | 20.6% | 4.3% | 100.0% |

〔二戸圏域〕※H28 年は上半期（1～6 月）実績

県立二戸病院で分娩した産婦のうち、県外居住者は、H27 年は 30.9%（うち青森県が 13.5%）、H28 年（上半期）は 31.2%（うち青森県は 15.4%）となっている。

また、二戸圏域の居住者のうち青森県で分娩したのは、H27 年は 7.9%、H28 年（上半期）は 11.3%となっている。

・県立二戸病院の産婦の住所地　※H28 は上半期（1～6 月）

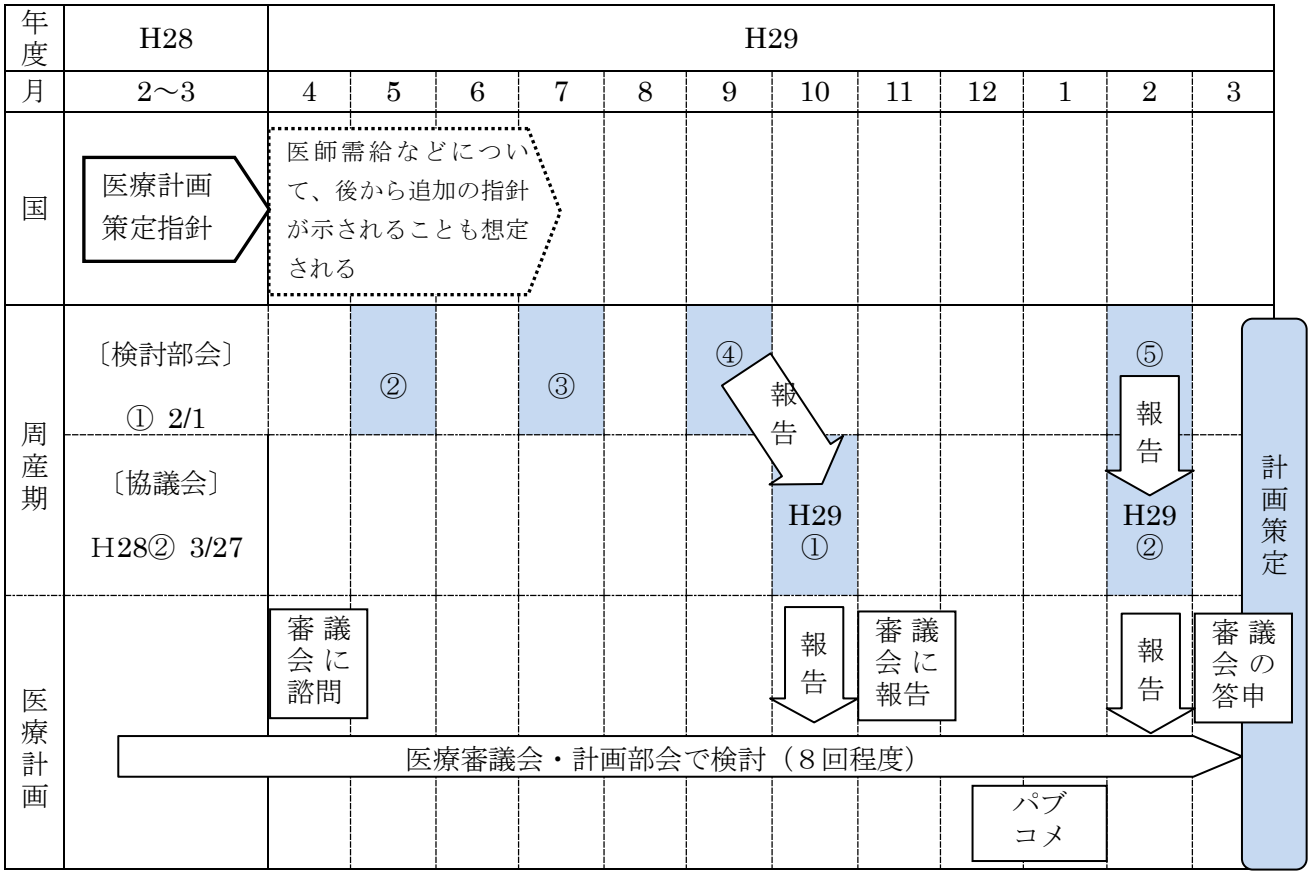
| 圏域・地域 | 二戸 | 久慈 | 県内他圏域 | 青森県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 H28※ | 113 | 28 | 29 | 38 | 39 | 247 |
| H27 | 231 | 44 | 58 | 65 | 84 | 482 |
| （前回・H22） | 244 | 47 | 60 | 70 | 96 | 517 |
| 割合 H28※ | 45.7% | 11.3% | 11.7% | 15.4% | 15.8% | 100.0% |
| H27 | 47.9% | 9.1% | 12.0% | 13.5% | 17.4% | 100.0% |
| （前回・H22） | 47.2% | 9.1% | 11.6% | 13.5% | 18.6% | 100.0% |

・二戸圏域の産婦の分娩場所　※H28 は上半期（1～6 月）

| 圏域・地域 | 二戸 | 久慈 | 県内他圏域 | 青森県 | 県外その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦数 H28※ | 130 | 2 | 10 | 19 | 7 | 168 |
| H27 | 231 | 7 | 25 | 23 | 4 | 290 |
| 割合 H28※ | 77.4% | 1.2% | 6.0% | 11.3% | 4.2% | 100.0% |
| H27 | 79.7% | 2.4% | 8.6% | 7.9% | 1.4% | 100.0% |

## 4　国の周産期医療のあり方に関する検討会意見を踏まえた新たな計画策定に係る論点

（１）医師不足等に対応した地域における周産期医療の確保について
（２）周産期に係る医療圏の設定と広域搬送の充実等について
（３）合併症を有する妊産婦への対応について
（４）災害時の周産期医療体制について

〔策定スケジュール等（案）〕

| 協議会・検討部会（開催時期） | 検討内容（案） |
|---|---|
| 第１回検討部会（2 月 10 日） | 国の動向、次期計画策定、論点整理 |
| **H28 第２回協議会**（3 月 27 日） | 次期計画策定の方向性、論点確認　等 |
| 第２回検討部会（５月頃） | 周産期医療圏の設定、広域搬送充実　等 |
| 第３回検討部会（７月頃） | 周産期医療に携わる人材の確保、助産師の活用、合併症への対応、災害時の周産期医療体制　等 |
| 第４回検討部会（９月頃） | 中間案の取りまとめ（→協議会に報告） |
| **H29 第１回協議会**（10 月頃） | 中間案の承認、決定（→医療審議会に報告） |
| 第５回検討部会（２月頃） | 最終案の確認・検討（→協議会に報告） |
| **H29 第２回協議会**（２月頃） | 最終案の決定（→医療審議会に報告） |